

令和 6 年 6 月 30 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K11786

研究課題名（和文）ネパール・ヒマラヤ地域における中国主導の経済開発と「仏教の政治」

研究課題名（英文）China's State-led Development and Politics of Buddhism in Nepal-Himalaya Region

研究代表者

別所 裕介（Bessho, Yusuke）

駒澤大学・総合教育研究部・教授

研究者番号：40585650

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、現代中国が南アジア向けに進める仏教外交を主題とし、一帯一路政策の最前線となっているネパール国内仏教徒の動静を、中国主導の国境開発の帰趨と絡めて検討した。現地調査では、国王廃位後の仏教復興の現状を、都市型近代仏教、ローカルな土着仏教、在地信徒集団、という3つのアクター間の相互作用として分析した。

この結果、中国主導の開発に対してと、の間で経済的な期待が高まる一方、が保持する正統仏教の継承者としての主導性が仏教信仰のレベルでこれを相対化することで、土着仏教徒の文化的主導性を無視した開発プロジェクトに対して草の根の異議申し立てを行う契機が生み出されていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日重大な岐路を迎えているとされる「一帯一路」に関して、従来高い関心を持たれてきた「海のシルクロード」に対し、相対的に知見の構築が遅れている「陸のシルクロード」を取り上げ、その最前線のひとつとなっているネパールでの現地調査を通じ、次の2点を明らかにしたことが本研究の重要な意義である。

1) 現代中国が進める「公共外交」の一環としての「仏教外交」について、南アジア側の在地社会がアンビバレントな受け止めを示していること、2) 国際秩序や資源ナショナリズムといった既存の枠組みではなく、中国自身の自国西部辺境の経営経験に根差した「文化的近縁性」に基づく開発スキームの成否をミクロに分析する視点を拓いたこと

研究成果の概要（英文）：This study examined the Buddhist diplomacy being pursued by China towards South Asia, and examined the movements of Nepalese domestic Buddhists, who are at the forefront of the 'BRI' policy, in relation to the trend of China-led border development. In the fieldwork, I analyzed the current state of Buddhist revival after the abolition of the Hindu monarchy as an interaction among three actors: (1) urbanized modern Buddhism, (2) indigenous Buddhism, and (3) local lay groups.

The results revealed that while economic expectations for Chinese-led development are growing among (2) and (3), the leadership held by (1) as the successor of orthodox Buddhism objectified this at the level of Buddhist belief, creating an opportunity for grassroots opposition to development projects that ignore the cultural leadership of indigenous Buddhist groups.

研究分野：チベット研究

キーワード：仏教外交 一帯一路 文化的主導性 チベット仏教 ネパール・ヒマラヤ

1. 研究開始当初の背景

2000年代の西部大開発の進展により、西部辺境の隅々にまで経済開発を浸透させてきた中国は、アジアインフラ投資銀行の開業と合わせて「一帯一路」を始動させ、国土の西側に接続する中央アジア・南アジア諸国との新たな関係構築に動き出している。南アジアへの直接の玄関口となるネパールに対しては数多くのインフラ支援（国境山岳地帯のドライポート建設と国際空港、6つの南北縦貫道、水力発電所、通信回線網の整備）を約束した他、両国関係の目玉となる超大型プロジェクトとして、2027年をめどに、自国のチベット鉄道をネパール国境の町・ラスワ経由でカトマンドゥまで乗り入れることを謳っている。2008年の王制崩壊以降、マオイスト（ネパール共産党毛沢東主義派）を始めとする新たな政治勢力の台頭を経て親中国色を強めてきたネパール政府は中国主導のインフラ開発をおおむね歓迎しており、従来のインド支配からの脱却が進みつつある。

中ネ間の経済関係として推移する以上の状況には、自国の水資源と領土主権を懸念するインド、チベット問題をめぐって人権や環境問題に関心を注ぐ欧米諸国、2008年以降グローバルに拡散した汎チベット民族主義など、経済だけでは解決困難な課題が並走している。一帯一路の円滑な推進に当たってこの点を熟慮する中国は、インドや欧米諸国を牽制しつつ自らへの信頼を獲得する最有力のソフトパワー戦略として「アジア仏教の復興と繁栄」を掲げ、チベット鉄道を始めとする巨額投資によって自らのプレゼンスを高め、釈迦の生誕地として名高いネパール南部のルンビニ開発にも名乗りを上げることで、自らを「アジア仏教の盟主」の地位に押し上げることを企図している。

以上のような「仏教」を軸とする文化の政治は、インドに寓居するダライ・ラマと亡命チベット人勢力の影響力を削ぎつつ、巨額の開発投資に見合う形で自国イメージを向上させ、アジア大陸部の東側に暮らす仏教徒たちから幅広い関心と支持を集めることを目的としている。だが、国内のチベット問題を放置したまま、ヒンドゥー高カースト政治家とのトップ外交で全てを決めていく中国主導の「仏教外交」が、この半世紀間にチベット本土に生じた多大な変化を受け止めてきたヒマラヤの人々から全幅の信頼を勝ち得ることは容易ではない。

2. 研究の目的

本研究では、以下A~Cの検討を通じて、国家的政治主体から生活者の間にまで、幅広く流通する「仏教」にまつわる言説を拾い出し、現実の政治情勢に沿ってその分岐と相違を位置づけることで、現代中国が主導する地域開発が南アジアの地盤においてどこまで持続可能性を持つのかを検証する。

A) 国家主体による民族研究の趨勢：

・南アジアへの進出に伴い、従来のチベット統治に用いられてきた「近縁性の論理」としての中華民族モデルが、国境の外に暮らすチベット系民族を取り込むために修正を加えられつつ採用されていく状況を、中国側ヒマラヤ研究の動向を分析することから把握する

B) ネパール側の仏教権益団体の動静：

・仏教徒が集住するカトマンドゥのボダナート、並びに中国が開発のゴールとして重視するルンビニを対象に、国内仏教徒の代弁機関であるネパール仏教協会、仏教僧院連合、ルンビニ開発委員会など、種々の関連団体における「仏教の政治」への受け止めを検討する。

C) 中国の企業体・商業者と国境地域住民のもつれあい：

・2027年に鉄道開通が予定されているラスワ地区のチベット仏教徒住民と中国系企業複合体、商業主や観光客など、多様なアクターに対して参与観察を行い、インフラ開発に伴う国境地域の経済変動と伝統仏教の関係を明らかにする。

3. 研究の方法

上記の課題設定に基づき、ネパール・ヒマラヤの地域開発に関わる様々な主体の間で構築されている仏教にまつわる言説を、文献調査とフィールドワークの双方から検討する。ここでは、一帯一路に代表される中国主導のグローバル経済振興策が「文化的近縁性」を誇示するソフトパワー戦略を伴っていることに着目し、特に南アジア向けのインフラ開発で中国政府が採用する「アジア仏教の復興と繁栄」という開発スキームを「仏教の政治」と位置づけた上で、これに対するネパール国内仏教徒の反応を検討する。本研究は三段階からなる。

- 1) 第一に、国家主体におけるチベット系民族集団の位置づけを把握する。
- 2) 次に、ネパール国内の仏教をめぐる世論形成をカトマンドゥとルンビニでの現地調査から把握する。
- 3) その上で、開発の最前線となる国境地域の動静を、チベット系住民と中国人入境者のミクロな交渉の現場から紐解く。以上のプロセスにより、開発に関わる人々の「仏教の取り扱い方」をめぐる相違を明らかにし、南アジアの一角で中国が主導する地域開発の持続可能性を検討する。

4. 研究成果

(1) 2018 年度

研究初年度は、ヒマラヤ国境地域におけるインフラ開発と、そこにおける「文化的近縁性」を利用した宗教表象の動員状況について、ネパール・ヒマラヤ地域での実地調査を行う前の地固めとして、中国側の南アジア研究体制の中でのヒマラヤ地域研究の動静を把握するための現地調査と、南アジアのネパール周辺国における仏教と社会の関係について研究を進めた。具体的には、中国籍研究者によるヒマラヤ仏教徒社会研究の動静把握、ならびに南アジアのネパール周辺国における中国の人的・物的なプレゼンスの向上と、それが現地仏教徒社会にもたらしている政治・経済的変動の概況把握の2つに取り組んだ。前者においては中国籍のネイティブ研究者が持つ「文化的近縁性」にまつわる彼ら自身の意識のあり方を、後者では、ネパール国内の仏教勢力と地続きで密接につながっているインド・ブータンの現状について把握できたことで、次年度に向けて重要な基礎固めを行うことができた。

(2) 2019 年度

二年目は、2015年に国境地帯を襲った大地震以降、段階的な復興を遂げつつあるラズワ郡Z地区を拠点として、ある程度まとまったフィールドワークを進めることができた。これにより、「アジア仏教の復興と繁栄」を掲げる中国主導の開発に対し、現地のチベット仏教信徒がどのような見方を保持しているのかについて、各社会層にわたる聞き取りと参与観察に基づく現地資料を集めることができた。成果の一部は、フランス・パリで開催された第15回国際チベット学会、および関連するラウンドテーブル・セッションで公表され、海外のチベット研究者との意見交換を勧めた。他方で、本来春季休業期間中に継続して行うはずだった現地調査は、南アジアにおけるCovid-19の蔓延により、中断せざるを得なくなった。

(3) 2020 年度

Covid-19のパンデミックを受け、三年目となる本年度では文献調査と学会報告の二方面において実績作りに注力した。文献調査は、①前年度に現地収集した文献資料の整理、②現地の仏教実践に関する映像資料の整理、③当該地域にかかる欧米の学術調査の成果についてのレビュー、の3点に絞って重点的に進めた。特に③については、1970年代にネパール・ヒマラヤの北部国境地帯で進められたドイツ調査隊による“The Nepal-German Manuscript Preservation Project”による成果の一部を閲読し、本研究課題にかかる国境地帯の仏教をめぐるローカルな信仰体系の起源と継承について、文献的な裏付けを得ることができた。また2)については、日本南アジア学会と日本チベット学会で報告を行い、後者へは論文を投稿した。

(4) 2021 年度

コロナ禍によって引き続きフィールド調査が行えない状況を踏まえ、前年度に引き続いて文献研究と学会報告に注力した。現地調査資料の不足を補うため、先行するヒマラヤ地域研究の文化人類学的成果をレビューするとともに、1970年代に行われた欧米の学術調査隊による仏教文献調査についても閲読を進めた。その上で、チベット・ヒマラヤ地域を研究対象とする若手研究者らと共に2回の学術報告を行った。いずれも一般に開かれた公開セミナーとして実施した。

(5) 2022 年度

2年半に渡って中断していた南アジアでのフィールドワークを再開し、ヒマラヤ仏教の土着的体系とそれを再編しようとする都市型近代仏教の関係を見聞した。また、上記現地調査の内容を含む複数の研究成果の公表に努めた。特に現地調査では、これまでの不足を補うため、17世紀以来ヒマラヤ山間部で活動する拠点僧院と村落共同体の関係について、のべ40日間の臨地調査を実施した。現地では、ここまで蓄積した同地の歴史資料から得られた前近代の宗教状況に関する知見を前提として、国王廃位後の社会変化をふまえた信仰実践の現状を、①外来のラマ、②在地のラマ、③在地信徒、という3つの視点からそれぞれ把握する作業を進めた。また、上記の調査にかかる研究報告を、プラハのカレル大学で開催された第16回国際チベット学会を始めとして国内の3つの学会で発表し、関連研究者との情報共有と意見交換を進めた。

(6) 2023 年度

最終年度では現地において資料収集と臨地調査を行い、成果の全体的集約を進めた。本研究の全体を通じて得られた成果は以下の2点である。

- 一) ネパールとその隣接諸地域(インド北部のヒマールチャル州とシッキム州)を対象として、ヒマラヤ南面の同緯度地帯で起こっている社会変化を比較検討し、「陸のシルクロード」が持つ持続可能性の検討を地域社会に内在する論理から読み解いた。
- 二) ヒマラヤ国境地帯における中国資本が絡む経済開発と、それに伴う在地仏教徒のアイデンティティ・ポリティクスを地域社会内の相互作用として読み解く視点を提起した。この成果は、現状のヒマラヤ南面の諸国家の中で唯一積極的に中国への全面開放を進めているネパールと、反対に国境の排他的管理を強めているインド、という2つの対照的な国家主義の狭間で、「仏教外交」への対処を個別に進めていく土着仏教徒の側の自立性を検証していく上で不可欠なものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 別所 裕介	4. 巻 88
2. 論文標題 チベット牧畜社会における生業民俗的知識と改革派仏教	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 095 ~ 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.88.1_095	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 28
2. 論文標題 環ヒマラヤのチベット仏教：南アジアにおける「他者」との間合いをめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 宗教と社会	6. 最初と最後の頁 219-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 星 泉, 岩田 啓介, 平田 昌弘, 別所 裕介, 山口 哲由, 海老原 志穂	4. 巻 6
2. 論文標題 失われゆく牧畜文化を活写するための「フィールド・アーカイビング」：『チベット牧畜文化辞典』編纂の経験から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 198-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.6.s3_s198	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 67
2. 論文標題 ネパール・ヒマラヤ国境地帯のチベット仏教圏と社会変動 北中部ラスワ郡での現地調査報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本チベット学会会報	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 95-2
2. 論文標題 書評：櫻井義秀編著『アジアの公共宗教 ポスト社会主義国家の政教関係』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 222-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20716/rsjars.95.2_222	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 BESSHO YUSUKE	4. 巻 5
2. 論文標題 Those Who Sell the Sacred Sites: The Economic Development of Contemporary Tibet and Popular Religious Spaces	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Religious Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 3-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 臨川書店
2. 論文標題 「いきもの」を通してみるチベット人の生活世界 牧畜と生業コミュニティ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 チベットの歴史と社会	6. 最初と最後の頁 82-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 弘文堂
2. 論文標題 現代チベットの菜食主義運動と牧畜社会：「生き物の命」を媒介とするスピリチュアル・マーケットの動態	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代宗教とスピリチュアル・マーケット	6. 最初と最後の頁 329-348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 明石書店
2. 論文標題 第38章：チベット難民	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代ネパールを知るための60章 エリア・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 232-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 93 (4)
2. 論文標題 現代中国の『仏教外交』 開発対象地域とのすり合わせから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 402-403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 (電子媒体記事)
2. 論文標題 天と地がつながる瞬間 山の神祭り	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 チベット牧畜文化ポータル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 (電子媒体記事)
2. 論文標題 空間をリセットする 牧畜民の年越し	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 チベット牧畜文化ポータル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 (電子媒体記事)
2. 論文標題 子供の成長を祝うー幼児の髪切り式	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 チベット牧畜文化ポータル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 24
2. 論文標題 「山」という媒介装置 チベット仏教のコスモロジーと聖山信仰	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リトン宗教史叢書: 媒介するもの/モノの宗教史(上)	6. 最初と最後の頁 211-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 別所裕介	4. 巻 6
2. 論文標題 チベットの憑きもの 「テウラン」についての覚書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 チベット文学と映画制作の現在	6. 最初と最後の頁 44-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計22件(うち招待講演 5件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 Himalayan Buddhist Environmentalism: What distinguishes SIKKIM society from others?
3. 学会等名 International Workshop on Globalizing Life World and Sustainable Development in Indian States (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 人力で渡る内陸アジアの高地文化
3. 学会等名 鶴見大学比較文化研究所公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 チベット仏教社会における肉食と不殺生：最新のフィールドワークに基づく報告
3. 学会等名 駒沢宗教学研究会「第198回宗教学研究会」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 環ヒマラヤのチベット仏教：南アジアにおける「他者」との間合いをめぐって
3. 学会等名 「宗教と社会」学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Bessho Yusuke
2. 発表標題 The Cultural Importance of the Suffocation Method of Slaughtering in Tibet, with a Focus on Regional Variations in Technique Associated with Neighboring Ethnic Groups
3. 学会等名 The 16th Seminar of the International Association for Tibetan Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Bessho Yusuke
2. 発表標題 State Politics and Tibetan Buddhism: A Preliminary Field Survey in SIKKIM
3. 学会等名 International Workshop on State Politics in India,
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Bessho Yusuke
2. 発表標題 The Dynamism between Buddhist Regional Blocs and Local Religious Practices in Amdo
3. 学会等名 International Symposium: Buddhist Practices and Reincarnated Lamas in Contemporary Mongolia
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 交易路の幹線性と宗教関係ネットワーク　ネパール・ヒマラヤのチベット仏教圏形成をめぐって
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催フィールドネット・ラウンジ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 「みんな、ここを通った」～戦争・交易・巡礼から見るヒマラヤ交易路の盛衰史（趣旨説明）
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催フィールドネット・ラウンジ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 ヒンドゥーの国でブッダを信奉する 現代インドにおける仏教徒の生存空間（趣旨説明）
3. 学会等名 駒沢宗教学研究会・第192回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 羊たちの消滅 変わりゆくチベット牧畜民の生活社会
3. 学会等名 人文研アカデミー2021 出版記念連続セミナー（京都大学人文科学研究所主催）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 ネパール・ヒマラヤ国境地帯のチベット仏教圏と社会変動：北中部ラスワ郡での現地調査報告
3. 学会等名 日本チベット学会第68回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 「一帯一路」とヒマラヤ民族研究：現代中国による辺境統治理論のリサイクルをめぐる
3. 学会等名 日本南アジア学会第33回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Bessho Yusuke
2. 発表標題 The Practice of Liberating Animals (tshe thar) among Pastoralists in the Sanjiangyuan Nature Reserve: Based on Field Experience Creating a Dictionary of Pastoralism
3. 学会等名 15th International Association for Tibetan Studies Seminar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Bessho Yusuke
2. 発表標題 Tibetan Studies in the Field of Socio-Cultural Research in Japan
3. 学会等名 A Roundtable Discussion on Tibetan Studies in Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Bessho Yusuke
2. 発表標題 Current Status of Pastoral Culture and Its Political Background in Amdo
3. 学会等名 Seminar in Tibetology (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Bessho Yusuke
2. 発表標題 Field Research on the Folk-religious Practices in Tsekog Nomadic Pastoralists
3. 学会等名 International workshop "Making the Thesaurus of Tibetan Pastoralism Vocabulary Which Is in Danger of Disappearing" (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 仏法の来た“道”：中国主導のヒマラヤ開発と「仏教外交」
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フィールドネットラウンジ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 中国主導のヒマラヤ開発と仏教の政治
3. 学会等名 第7回チベット学情報交換会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 現代中国の「仏教外交」：開発対象地域とのすり合わせから
3. 学会等名 日本宗教学会 第 78 回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 現代中国の「生態文化」言説とチベット人の「環境主義」的实践
3. 学会等名 第77回日本宗教学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 別所裕介
2. 発表標題 岐路に立つ牧畜民：三江源自然保護区における牧畜の処遇をめぐって
3. 学会等名 第66回日本チベット学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 長谷千代子・別所裕介・川口幸大・藤本透子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 420
3. 書名 宗教性の人類学 近代の果てに、人は何を願うのか	

1. 著者名 星泉，海老原志穂，南太加，別所裕介（第4著者）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 488
3. 書名 チベット牧畜文化辞典（チベット語・日本語）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>みんな、ここを通った～戦争・交易・巡礼から見るヒマラヤ交易路の盛衰史 https://sites.google.com/view/everyone-passed-here/home</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------